

週間展望 (5/16～5/22)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

日産証券株式会社

〔1〕

目次（2022/5/16号）

■ 目次	・・・ P 2
■ 週間予定	・・・ P 3
■ 前週Review	・・・ P 4
■ ドル円：金利上昇一服で調整安	・・・ P 5
■ 金：テクニカル面から出る安値売り込みは避けたい	・・・ P 6
■ 白金：C F T C建玉明細で大口投機玉は途転	・・・ P 8
■ ゴム：減産期終了。中国のロックダウンも需要減少要因	・・・ P 9
■ 穀物：肥料価格上昇に加え、米作付け遅れ続く	・・・ P 10
■ 原油：再度、三角もち合い上放れ試し	・・・ P 11
□ 週間予定：中国マクロ経済指標に加え、日米首脳会談、米韓首脳会談	・・・ P 12
□ 騰落率（年間・月間・週間）	・・・ P 13
□ 米C P I	・・・ P 13
□ E T F（金・白金）・E I A原油在庫	・・・ P 14
□ U S D A生育進捗率・U S D A作柄	・・・ P 15
□ 週間輸出成約高・ゴム在庫（東京・上海）	・・・ P 15
□ C F T C建玉明細・・・ P 16～17 （ドル円・ユーロドル・NY金・NY白金） （NY原油・NYガソリン・シカゴ大豆・シカゴコーン）	

CX週間展望（5月16日～）

【週間スケジュール(5月16～22日)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	事前予想
5月16日(月)	8:50	日本	4月	企業物価指数 (前年比)	9.5	
	11:00	中国	4月	固定資産投資 (前年比)	9.3%	7.0%
	11:00	中国	4月	鉱工業生産 (前年比)	5.0%	0.3%
	11:00	中国	4月	小売売上高 (前年比)	-3.5%	-6.0%
	20:00	ユーロ圏	4月	準備資産総額	1,102.82 (十億)	
	21:30	米国	5月	NY 州製造業業況指数	24.60	15.50
5月17日(火)	15:00	英国	4月	失業手当受給者数増減	-46.9 (千)	
	15:00	英国	3月	失業率 (ILO 基準)	3.8%	
	18:00	ユーロ圏	Q1	国内総生産 (GDP) 2次速報値 (前年比)	5.0%	5.0%
	21:30	米国	4月	小売売上高 (前月比)	0.5%	0.7%
	21:30	米国	4月	小売業販売高	-0.1%	
	22:15	米国	4月	鉱工業生産 (前月比)	0.9%	0.4%
	22:15	米国	4月	設備稼働率 季調値	78.3%	78.6%
	23:00	米国	3月	企業在庫 (前月比)	1.5%	1.8%
	23:00	米国	5月	NAHB 住宅市場指数	77	76
5月18日(水)	8:50	日本	Q1	国内総生産 (GDP) 1次速報値 (前期比)	1.1%	-0.4%
	15:00	英国	4月	生産者物価指数 (PPI) コア産出指数 (前年比) 原数値	12.0%	
	18:00	ユーロ圏	4月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 改定値 (前年比)	7.5%	7.5%
	18:00	ユーロ圏	4月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (食品・エネルギー・酒・タバコ除) 改定値 (前年比)	3.5%	3.5%
	21:30	米国	4月	建設許可件数	1.870 (百万)	1.813 (百万)
	21:30	米国	4月	住宅着工件数	1.793 (百万)	1.783 (百万)
				G7財務相・中銀総裁会議(～20日ドイツ)		
5月19日(木)	8:50	日本	3月	機械受注 船舶・電力除く民需 (前年比)	4.3%	
	8:50	日本	4月	輸出 (前年比)	14.7%	
	8:50	日本	4月	輸入 (前年比)	31.2%	
	8:50	日本	4月	貿易収支	-414.1 (十億)	
	21:30	米国	5月9日, 週次	新規失業保険申請件数		
	21:30	米国	5月2日, 週次	継続失業保険受給総数		
	21:30	米国	5月	フィラデルフィア連銀 業況指数	17.6	17.2
	23:00	米国	4月	中古住宅販売戸数	5.77 (百万)	5.65 (百万)
	23:00	米国	4月	中古住宅販売増減率	-2.7%	
5月20日(金)	8:01	英国	5月	Gfk 消費者信頼感指数	-38	
	8:30	日本	4月	全国コア消費者物価指数 (CPI) (前年比)	0.8%	
	15:00	ドイツ	4月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	30.9%	
	15:00	英国	4月	小売売上高 (前年比)	0.9%	
	0:00	ユーロ圏	5月	消費者信頼感指数 速報値	-22	
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細		
	納会	米国	---	NY原油2022年6月限納会		
5月21日(土)				米韓首脳会談(ソウル)		
				オーストラリア総選挙		
5月22日(日)				バイデン大統領来日 (23日:日米首脳会談・24日Quad首脳会合)		
				ダボス会議 (～26日)		

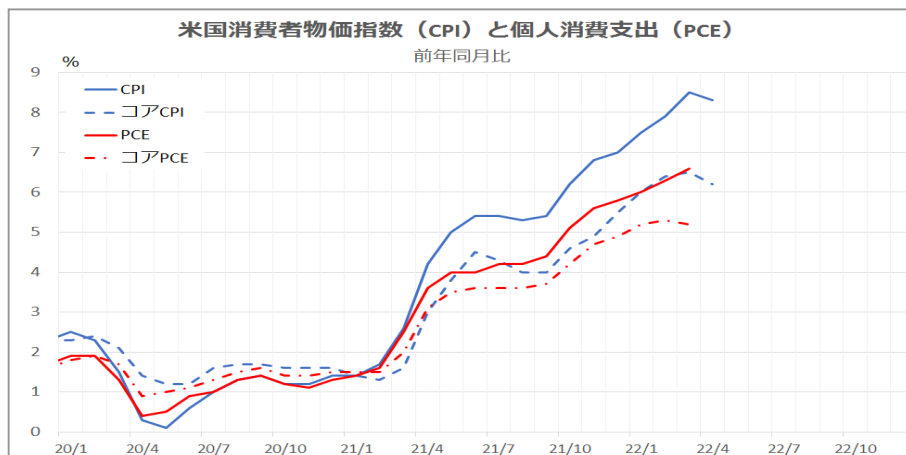
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

前週レビュー

～インフレ服か否か?～

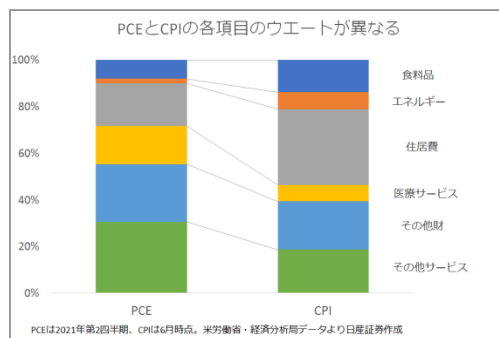
調査課

菊川 弘之



【CPI・PPI】

4月の米消費者物価指数(CPI、季節調整済み)が前年同月比8.3%上昇と、1981年12月以来の高水準だった3月の8.5%から減速。減速は昨年8月以来初めてとなり、翌日に発表された4月の米卸売物価指数(PPI)も、市場予想通りで、エネルギーと食品を除いたコア指数は市場予想を下回ったことで、インフレのピークアウトが意識されてきたとの見方も出てきた。



先週はCPIやPPIを受けて、インフレが鎮静化するのではないかとの見方から米金利は頭打ち・年初来安値を更新していた米株価指数は、週末にかけて自律反発となっている。NYダウは、2020年10月安値～2022年1月高値までの上昇に対する半値押し水準で、12日に長い下ヒゲを形成して、目先の底打ち感も出てきたチャートだ。



PCEは、落ち着いた動きになる傾向だが。。。

今月末に発表されるFRBが重視しているPCEは、食料品やエネルギー比率が小さく、CPIが過去の購入量が変わらないと仮定して算出されるのに対し、PCEは直近の消費量も加味されることもあり、CPIと比べて落ち着いた動きになりやすい。

NY原油は再び下値を切り返して三角保合いを上放れつつあり、穀物市場もロシア・ウクライナ戦争に加え、米国産の作付遅れもあり、高止まりしている。

月末にかけてインフレピークアウト感が出たとしても、このままインフレが鎮静化するとは考えない方が良く考える。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ドル円（YEN）

～130円割れで調整入り～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

インフレ対策に軸足を移した米国に対して、異次元緩和を続ける日銀との金融政策格差は大きく、3月以降の急激なドル高円安は、米金利上昇に伴う日米の金利差拡大に加え、日本のインフレ低迷や低成長、貿易赤字の常態化のほか、国内企業の対外直接投資拡大、海外投資家の日本投資減少などが重なったのが背景だ。

黒田シーリングと見られた125円を超えてから、本邦当局の口先介入以外の牽制はなく、ドル買いが加速したが、5月1日に上ヒゲを形成後、短期調整入りとなっている。

4月の米消費者物価指数(CPI、季節調整済み)が前年同月比8.3%上昇と、1981年12月以来の高水準だった3月の8.5%から減速。減速は昨年8月以来初めてとなったことで、インフレのピークアウトが意識されてきたとの見方もあるが、あくまで短期的な上昇に対する調整と見た方が良いだろう。

本格的なトレンド反転は、①インフレ鎮静化で、FRBが利上げ幅を通常の0.25%へ戻す。②日銀が金融正常化へ転換、③原発再稼働によるエネルギー輸入縮小、④インバウンド(訪日外国人)の解禁、などの材料が必要と想定されるが、現段階では、④以外は、早急に実現する可能性は低いのではないかな？

調整安は限定的か？

ネックライン(5/4安値:上記チャート緑点線)を割り込み、ダブルトップ完成からテクニカル的な売り圧力が高まったものの、週末は切り返しており、黒田シーリングの125円水準を大きく割り込むような事態は期待し難い。

ラガルドECB総裁は、ECBは第3・四半期初めに資産購入プログラムを終了する可能性が高く、その後「数週間」で利上げを実施する可能性があるとして述べており、ユーロの巻き戻し絡みでのドル売りがドル円相場に影響する可能性はあるものの、ドル円は125-130円のレンジで次の材料を待つ展開というのが、現段階でのメインシナリオではないかな？

金 (GOLD)

～短期調整入り～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

ダブルトップ完成、200日移動平均線割れなどテクニカル面からは、売り圧力が高まっている。NY金(6月限)は、一目均衡表からの下値目標、N=1814.2ドル達成。V=1783.4ドル、E=1704.4ドルなどがカウント可能だが、RSIはそろそろ下値警戒水準・短期的な売られ水準に接近中。

底打ち確認待ち

長い下ヒゲや、長大陽線などでの切り返しが見られれば、目先の底打ち感が高まる。



一方、JPX金は、海外安+円高が重なり、先週は調整が大きくなった。2021年12月安値～2022年4月高値までの上昇に対する38.2%押しと重なる心理的節目7500円を維持できるか否かが焦点。同水準を明確に割り込むと、三尊天井が完成となり、半値押し(7278円)～61.8%押し(7069円)が意識される。ただし、NY金同様、RSIは短期的な売られ過ぎ感に接近しており、パターン分析などでの売り圧力が高まって出た安値は、中長期的な買い場となりそう。内外共に、安値を売り込むことなく、チャート上の底打ちパターン出現を待ちたい。

先週末は、米CPI・PPIなどをきっかけに、ポジション調整絡みで金にも調整が入ったが、インフレが落ち着いたように見えるのは一時的で、米が利上げと合わせてQTを実施することで、2重の引き締め圧力がかかり、株価下落を招く「悪い金利上昇」が再度、意識され、NY金は、押し目買い直されるだろう。

フィンランドが12日、北大西洋条約機構(NATO)への加盟を申請すると表明。ロシア包囲網進むというような報道も見られるが、マーケットは欧州通貨売りの展開となっている。西側からの制裁で一時、急落したルーブルは、対ドルでも対ユーロでも既に制裁前の水準以上に上昇している。「金資源本位制」の導入検討で、金の裏付けが期待され、資源高の恩恵を受けるルーブルが、ドルやユーロに対して強い動きを見せている。

戦争が長期化すると、よりダメージが大きいのは欧州だ。ロシア産原油輸入禁止に難色を示すハンガリーは、ウクライナに軍事支援を行わないと表明するなど、ロシア制裁に対する温度差が出始めている。戦争が長引けば長引くほど、傷が少ない米国と傷が大きい欧州は分断されていく。

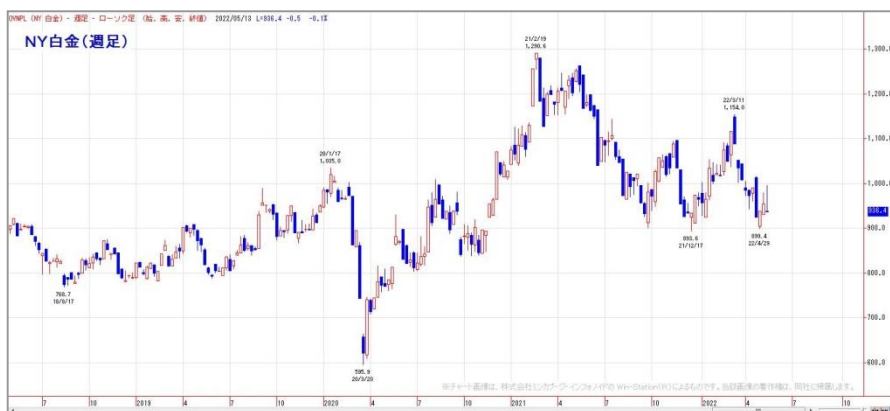
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

白金(Platinum)

～大口投機玉(CFTC)途転～

調査課

菊川 弘之

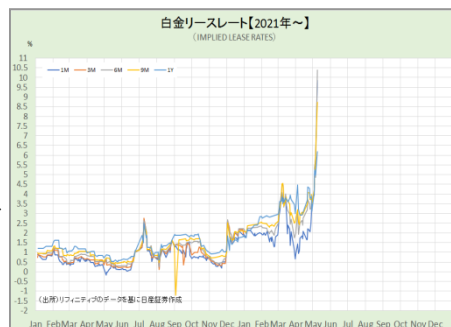


【今週見通し・戦略】

CFTC建玉明細(5/10現在)によると大口投機玉は、1,363枚の買い越し。前週(1,541枚の売り越し)から途転。売り越しは2週間だけだった。

リースレート
急伸

上海でのロックダウン(都市封鎖)解除にメドがたたず中国の景気不安が強いことや、米長期金利上昇・ドル高・株安から売り圧力が高まっていたが、足元の白金需給タイト感からリースレートが急伸している。



在庫は減少

「World Platinum Investment Council (WPIC)」によると、中国のプラチナ輸入は需要背景が明確な量を大きく超えて増え続け(実需以上の輸入量)、2021年には「超過分と実需不明分」合わせて43.5トンとなり、世界のプラチナ余剰を遥かに超えていた。NYMEXの白金在庫流出は、今年に入っても続いており、現物市場の品不足を反映している。



投機売越しは
買い場提供

ロシアによるウクライナ侵攻に伴う西側の制裁強化で、ロシアが生産の4割を占めるパラジウムから、白金へのシフトも意識されている。排ガス浄化装置について、白金への仕様変更は数年単位の時間がかかると見られるが、西側諸国がロシアへの資源依存を避ける方向に動けば、中国以外でも代替が進む可能性がある。ロシアの白金生産は世界の1割超で、パラジウムより依存度は低い。

世界的な電気自動車へのシフトに伴う排ガス触媒需要の低下観測から長期的な需給見通しは弱いものの、NY白金の900ドル以下では、長期上昇トレンドを形成している金相場との比較で、相対的な割安感が評価される。

900-1000ドルのレンジ相場入り。

ゴム(RSS 3号)

～タイ減産期が終了、中国ロックダウンで需要は減少～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

中国自動車工業協会(CAAM)が発表した4月の中国新車販売台数は、前年同月比47.6%増の118万1000台となった。これは4月の新車販売台数としては過去10年間で最小。

また、1月～4月の累計の新車販売台数は、前年同期比12.1%減の769万1000万台となった。



ロックダウン 継続

上海など中国主要都市でのロックダウン継続による経済活動停滞によってゴム需要が大幅に減退しており、ヘッジ売りが断続的に入ったことで上海ゴムは年初来安値を更新。年初高値を起点とした下降チャネルが継続している。

JPXゴムも円安一服もあり、中心限月・先限共に大幅安となっている。先限は、250円を明確に割り込むと、ダブルトップ完成となる。



タイでは減産期が明けており、中国の景気減速感も強い。5月の月間騰落率は買い方有利であるものの、下落した際は下げ率が大きい傾向。

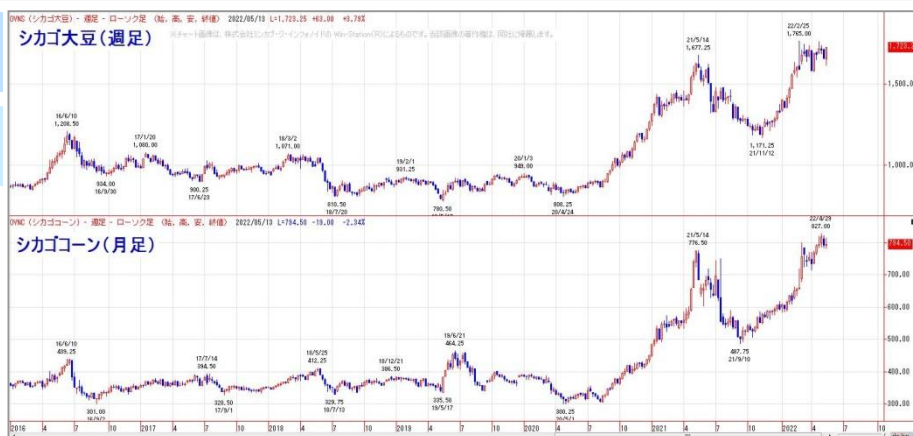
米株価下落が一服しているのはプラス要因も、中国のロックダウンの行方が明確になってこない、戻り売り基調は継続しそう。

穀物 (大豆・コーン)

～肥料価格上昇に加え、米作付遅れ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

米農務省(USDA)需給報告で、米国産大豆は21/22年度の需給引き締め見通しが示された。輸出量の増加観測によるもので、同年度の期末在庫率は、これまでの5.8%から5.3%へ下方修正された。

22/23年度は生産量が前年度の44億3500万Buから46億4000万Buに増加、期末在庫率は6.8%へ上昇と、需給緩和が見込まれている。

一方、コーンは、22/23年度の米国産コーンの期末在庫率は9.3%。21/22年度の期末在庫率は、前月の数字から据え置かれ9.6%。作付けの遅れが解消できなければ6月の需給報告で生産予想が引き下げられ、期末在庫率は9%割れとなる可能性。

8日時点の米国産コーンの作付け進捗率は22%にとどまり、平年の50%を大きく下回っている。例年、5月末までに米国産コーンの作付けは、ほぼ終了する(P13参照)。

今年は産地の低温で異例の遅さとなっている。5月中旬から後半に急ピッチで作付け作業が進んでも80%台にとどまり、大豆などへの転作される可能性が高くなっている。作付遅れは、単収低下につながりやすく、足元のコーンの作付遅れは、コーンにとっては強気要因(作付減少)、大豆にとっては弱気要因(作付増加)となる。

3月31日に発表された今年のコーン作付け意向面積は、年年の作付け面積実績9340万エーカーを大幅に下回る8949万エーカー。作付けが予定ほど進まない、6月30日に発表される作付け面積は、作付け意向面積より下方修正となる可能性。

米国産大豆は作付が遅延しているが、今後は米中西部北部以外で気温が上昇する見通しで、作付が進展する可能性がある。コーンよりも作付が1ヶ月ほど遅い大豆は、時期的にも作付終了までに時間的な余裕が十分にある状態。

原油(OIL)

～再度、三角もち合い上放れ試し～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

三角保合い
放れ待ち

石油輸出国機構(OPEC)月報で、2022年の世界の石油需要の伸びを前回予想から引き下げた。ウクライナ戦争や中国の新型コロナウイルスの感染拡大を抑制するための規制が影響。高インフレや金融引き締め、供給制約の長期化などを背景に22年の世界の経済成長率予想も下方修正した。米株価指数の年初来安値更新に追隨して調整入りしたものの、週末にかけて急速に下値を切り上げ、再度、三角保合い放れ待ちとなっている。

国際エネルギー機関(IEA)月報によると、西側制裁によってロシア産原油の購入が手控えられれば、減少幅は5月に日量160万バレル、6月は日量200万バレル、7月以降は日量300万バレル近くに拡大するとの見方を示している。

ただ4月のロシアの石油輸出は前月比日量62万バレル増の日量810万バレルとなり、1—2月の平均に戻ったとしている。これは米欧向け供給が主にインドに向かったことが理由と説明。

西側報道だけ見てみると見落としがちになるが、ロシアが国際社会から孤立しているという見方で固まっていると、この戦争が終わった時、日本の回りは敵だらけという国際秩序の枠組みに驚いてしまうかもしれない。国連総会人権理事会におけるロシアの理事国資格を停止させる4月7日の決議では、賛成が93ヶ国。中国など24ヶ国が反対し、58ヶ国が棄権に回った。中立的な立場を加えると、人口で言うならば、米国に賛成する人々のほうが少ない状況だ。

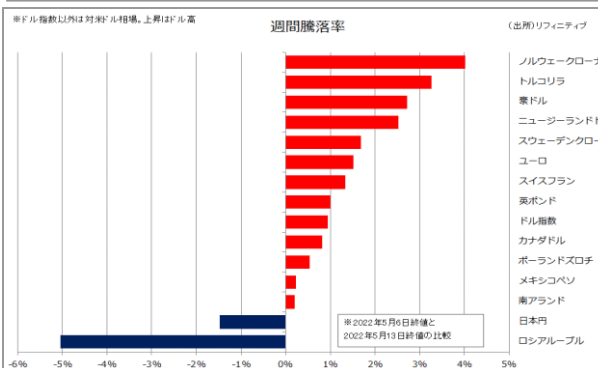
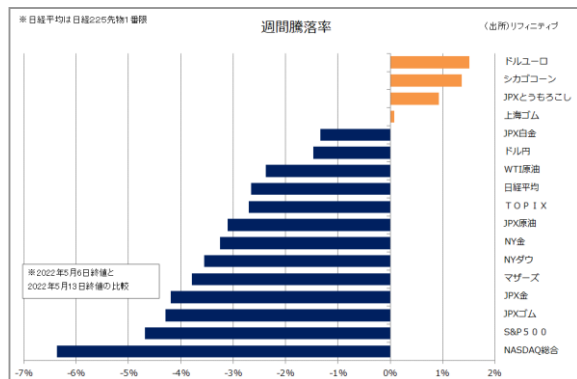
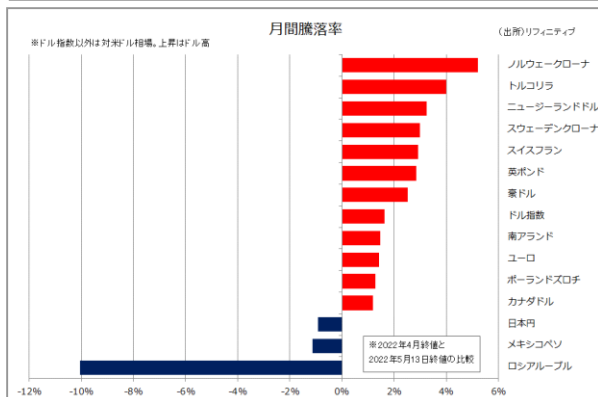
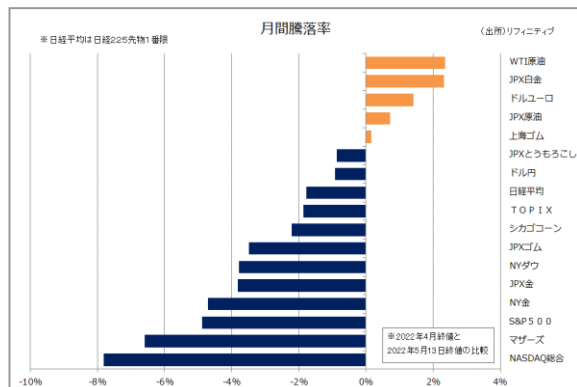
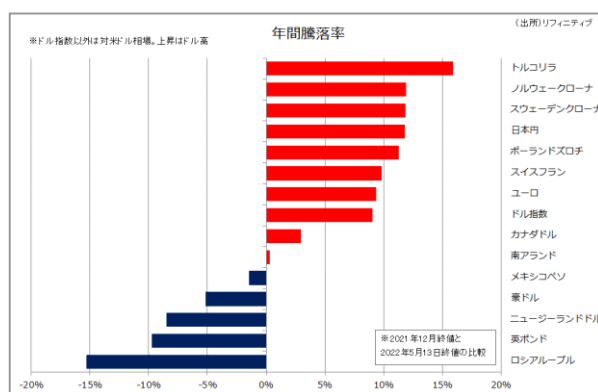
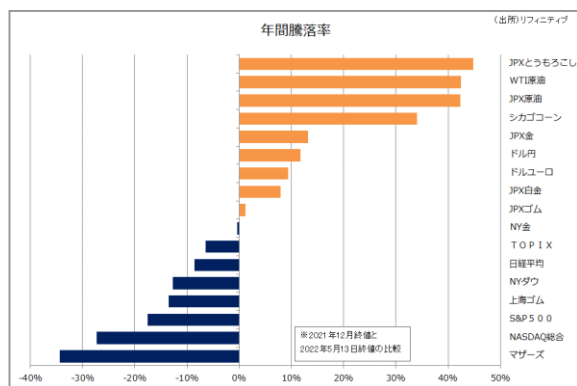
「自由で開かれたインド太平洋」を守るため安全保障や経済について協議する「Quad(日米豪印戦略対話)」加盟国のインドは、対ロ非難に加わっていないだけでなく、ロシアから原油輸入を増やす意向だ。インドは兵器の4割をロシアから買っていて、既存の装備品の8割はロシア製だ。インドにとってクアッドは、中国封じ込めが目的であることが露見している。

また、ハンガリーは、ウクライナに軍事支援を行わないと表明するなど、欧州でもロシア制裁に対する温度差が出始めている。戦争が長引けば長引くほど、西側は分断されていくだろう。

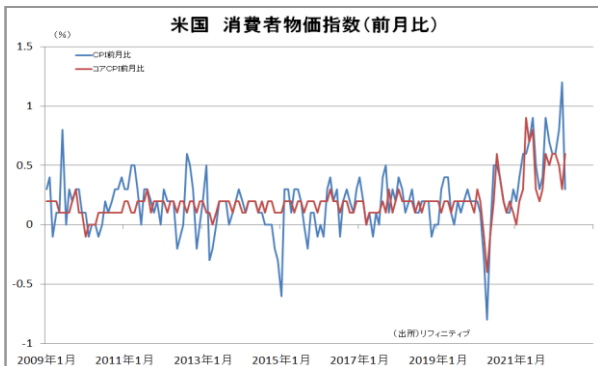
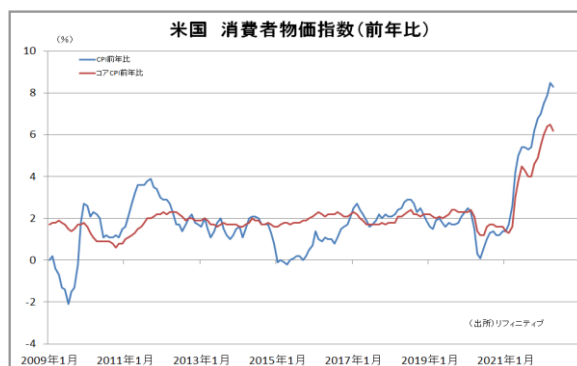
原油市場は米ドライブシーズンが始まる夏場にかけて、政情が不安定になっている中東・北アフリカリスクもあり、高値止まりが続くと考える。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(年間・月間・週間)】



【米消費者物価指数(4月)】

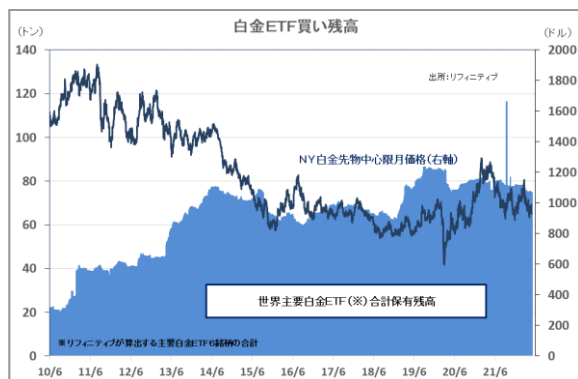


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

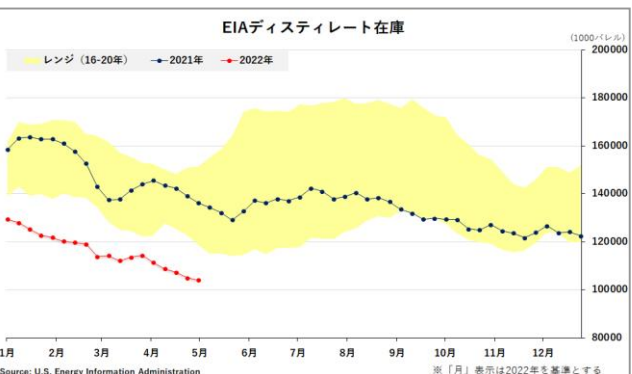
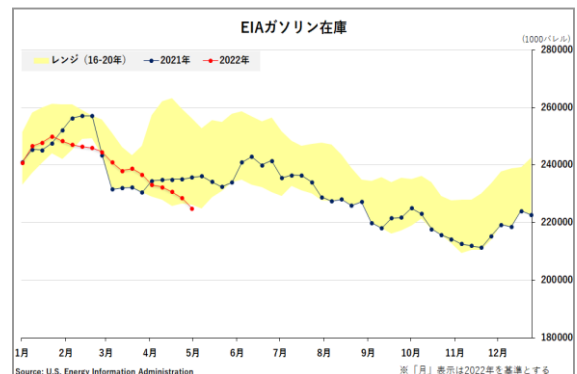
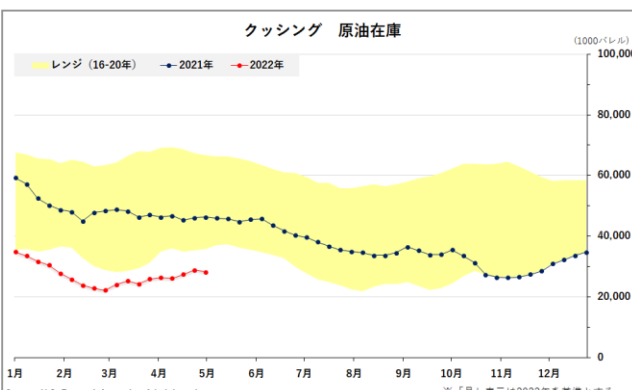
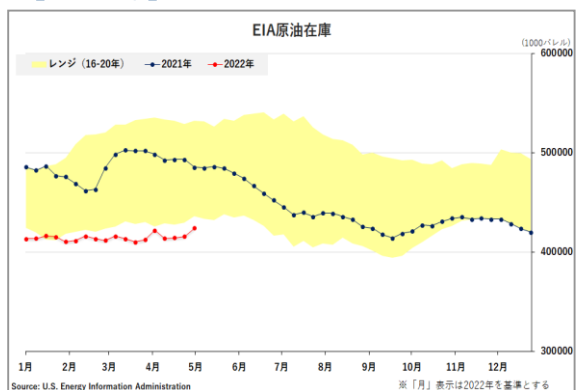


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/5/13	1055.89	-4.93
2022/5/12	1060.82	-5.80
2022/5/11	1066.62	-2.03
2022/5/10	1068.65	-7.25
2022/5/9	1075.90	-6.10
2022/5/6	1082.00	-2.99
2022/5/5	1084.99	-4.06



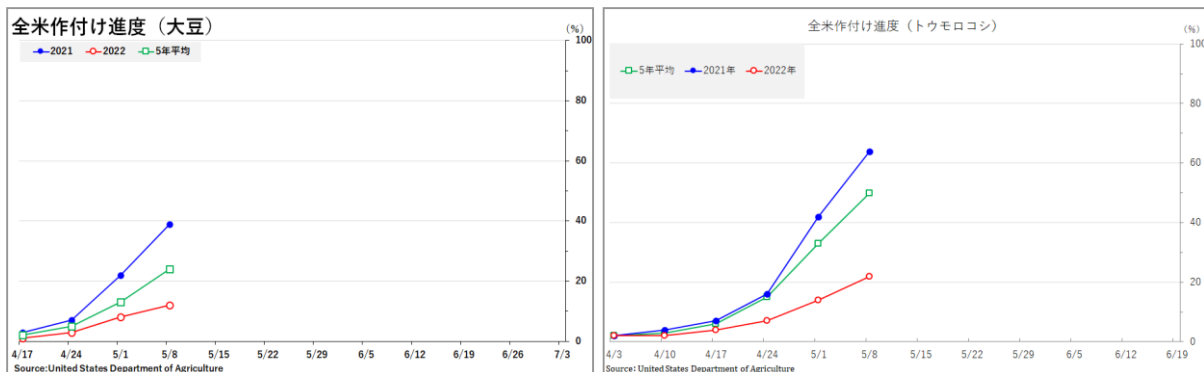
日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/5/13	74,992.65	±0
2022/5/12	74,992.65	-0.16
2022/5/11	74,992.81	-103.14
2022/5/10	75,095.95	-80.84
2022/5/9	75,176.79	-30.39
2022/5/6	75,207.17	-0.12
2022/5/5	75,207.30	-180.37

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

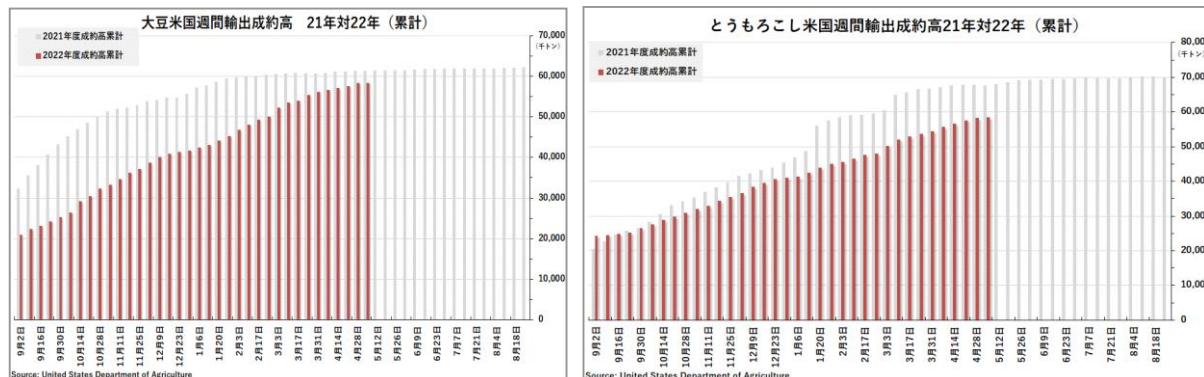
【USDA生育進捗(大豆・コーン)】



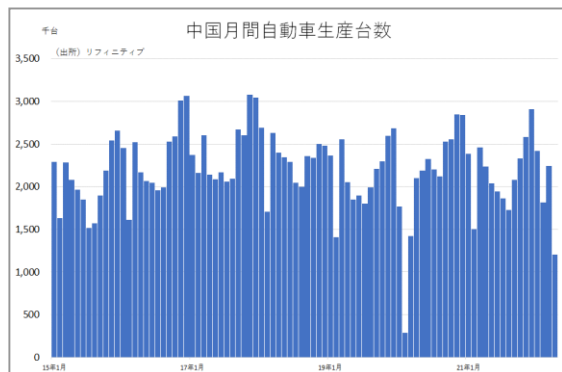
【USDA作柄(大豆・コーン)】

5月上旬～発表予定

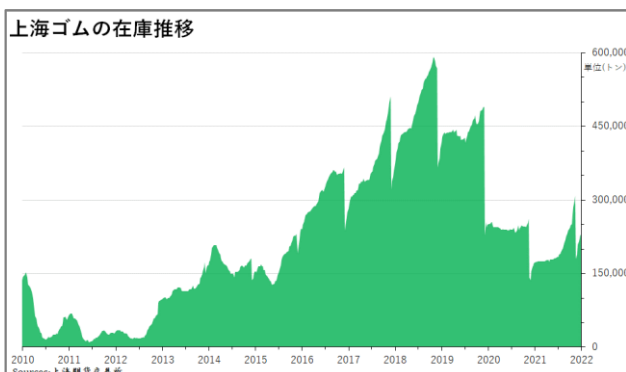
【週間輸出成約高(大豆・コーン)】



【新車販売(中国)】

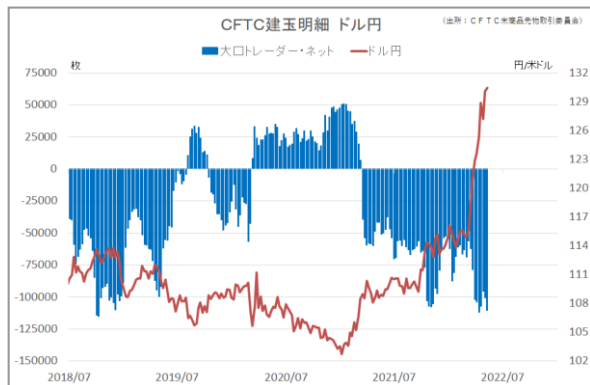


【ゴム在庫(上海)】

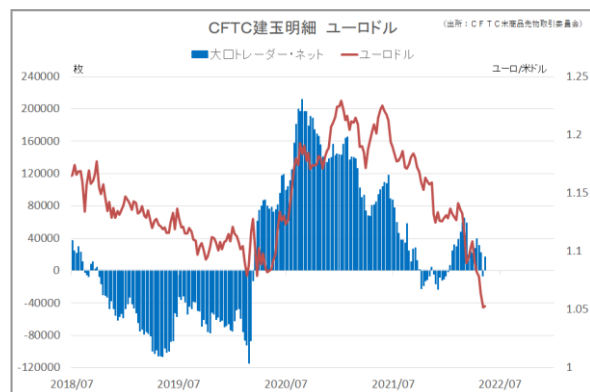


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

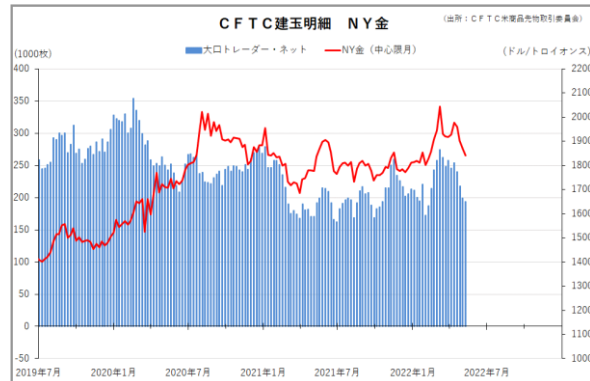
【CFTC建玉明細】



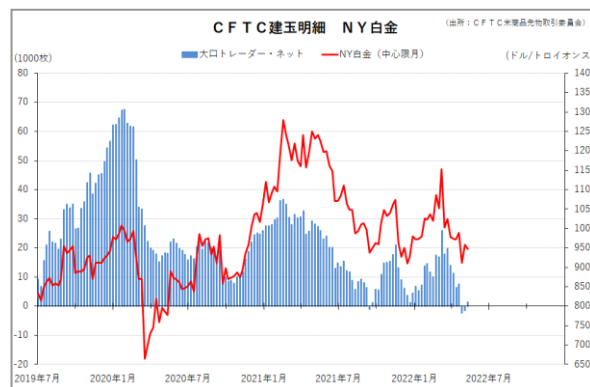
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/12	9,925	121,752	-111,827	125.35
2022/4/19	12,723	119,910	-107,187	128.9
2022/4/26	14,269	109,804	-95,535	127.22
2022/5/3	18,585	119,379	-100,794	130.1
2022/5/10	11,196	121,650	-110,454	130.43
前週比	-7,389	2,271	-9,660	0.33



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/12	221,645	182,585	39,060	1.0826
2022/4/19	221,003	189,702	31,301	1.0786
2022/4/26	222,993	200,792	22,201	1.0636
2022/5/3	208,449	214,827	-6,378	1.0520
2022/5/10	228,230	211,701	16,529	1.0527
前週比	19,781	-3,126	22,907	0.0007



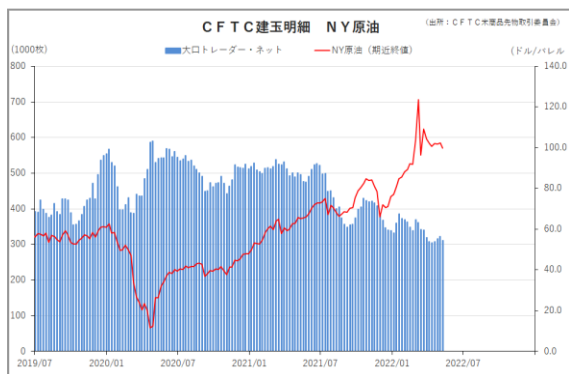
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/12	338,164	83,877	254,287	1976.1
2022/4/19	330,745	90,988	239,757	1959
2022/4/26	310,511	92,487	218,024	1904.1
2022/5/3	293,439	94,271	199,168	1870.6
2022/5/10	288,947	95,632	193,315	1841.0
前週比	-4,492	1,361	-5,853	-29.6



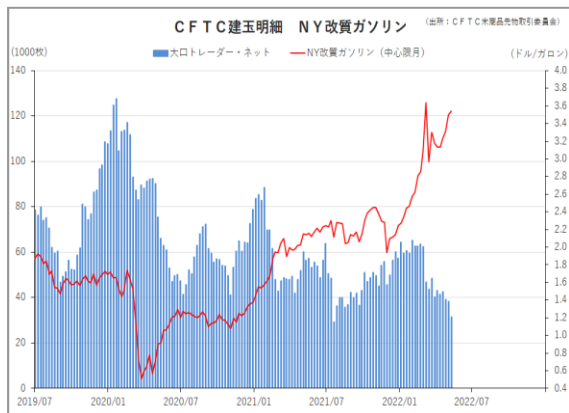
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/12	28,544	22,129	6,415	972.4
2022/4/19	28,293	20,756	7,537	988.7
2022/4/26	28,121	30,478	-2,357	912.1
2022/5/3	29,516	31,057	-1,541	958.6
2022/5/10	28,774	27,411	1,363	947.2
前週比	-742	-3,646	2,904	-11.4

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

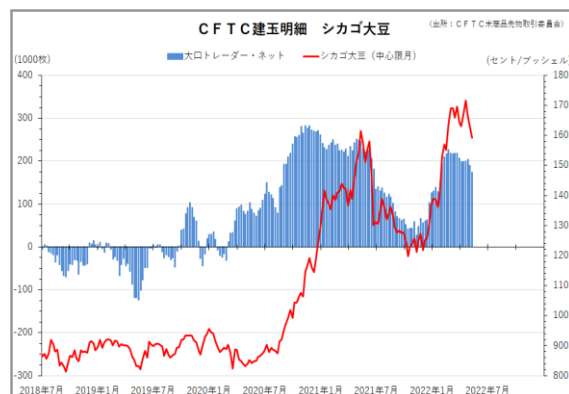
【CFTC建玉明細】



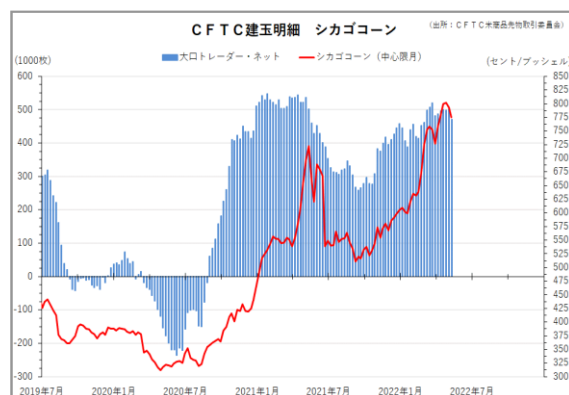
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/12	411,978	107,200	304,778	100.6
2022/4/19	411,622	103,925	307,697	102.05
2022/4/26	413,638	97,575	316,063	101.7
2022/5/3	419,692	97,991	321,701	102.41
2022/5/10	415,170	104,367	310,803	99.76
前週比	-4,522	6,376	-10,898	-2.65



NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/12	76,062	34,636	41,426	3.1375
2022/4/19	80,977	38,392	42,585	3.2289
2022/4/26	78,794	39,553	39,241	3.311
2022/5/3	79,017	40,636	38,381	3.5012
2022/5/10	73,929	42,551	31,378	3.5415
前週比	-5,088	1,915	-7,003	0.0403



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/12	247,765	49,470	198,295	1670.25
2022/4/19	250,566	50,468	200,098	1716.50
2022/4/26	249,273	45,467	203,806	1671.75
2022/5/3	239,355	48,953	190,402	1630.50
2022/5/10	225,260	50,652	174,608	1592.25
前週比	-14,095	1,699	-15,794	-38.25



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/4/12	572,527	76,946	495,581	776.25
2022/4/19	586,638	86,026	500,612	799.75
2022/4/26	575,082	77,457	497,625	801.50
2022/5/3	589,856	87,991	501,865	793.00
2022/5/10	573,327	102,419	470,908	775.25
前週比	-16,529	14,428	-30,957	-17.75

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

＜商号等＞ 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）
関東財務局長（金商）第131号 金融商品取引業者 商品先物取引業者
＜加入協会＞ 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般財団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、当社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。